

OU-VOICE

2013

No.

15



- VOICE
- **特集**
 - ・ 学士課程教育の構築
- シリーズ
 - ・ 卒業生メッセージ
- 投稿
- 知ってますか?

目次

VOICE

- 岡山のまちと共に「学都」をめざすー地域総合研究センターとは？ー
地域総合研究センター 副センター長 三村 聡 1

特集

- 学士課程教育の構築
教育開発センター 副センター長 佐々木 健二 4

コーヒーブレイク

- 平成25年4月から イングリッシュ・カフェが新しくなります！
言語教育センター 准教授 宇塚 万里子 10

シリーズ 卒業生メッセージ

- 憧れ続ける岡山大学
西日本放送株式会社 2013年4月入社予定
文学部人文学科 中桐 康介（2013年3月卒業見込） 12

- 就職は何のために？
日清食品株式会社 2013年4月入社予定
経済学部経済学科 金川 未希（2013年3月卒業見込） 13

投稿

- 海外の大学紹介
ベトナムの大学
言語教育センター 教授・ダラット大学東洋学部日文学科客員教授 酒井 峰男 14

知ってますか？

- e-ラーニングコースとマイクロソフトITアカデミープログラム
～マイクロソフトITアカデミーでICTスキルを伸ばそう！～
情報統括センター 教授 稗田 隆 17

- 岡山大学の短期語学研修プログラム
国際センター 助教 橋口 三千代 19

- 編集後記 21

(注) 役職等は、平成25年3月1日現在のものです。

岡山のまちと共に「学都」をめざす —地域総合研究センターとは？—

地域総合研究センター
副センター長 三村 聡

1. 美しい学都の実現

岡山大学は、平成23年11月15日に、大学と都市・地域が共同して美しい学都を創造するための拠点として、地域総合研究センターを設置しました。

その一つの取り組みとして、地域の人々と大学人との対話の場として、まちなかキャンパス事業を展開しています。また、大学と自治体や経済界、そしてNPOと対話を進めながら、地域の活性化のための方策を、地域と共に考え、実践していく活動を積極的に進めています。



まちなかキャンパス風景

2. まちなかキャンパス

まちなかキャンパスとは、大学の教員・職員・学生が地域の人々の自由な語り合いを通じた対話の場です。お互いを信じ合い対話する空間を創造することが、まちなかキャンパスの最も重要な目的です。さらに、世界的な広がりをもった対話の場と学都・岡山を担う若者の育成を目指しています。若者は、岡山から世界へ旅立つかもしれません。その土地や地域で、岡山で学んだものを花開かせ、岡山から世界への結びつきを強め、また、岡山の地において岡山を活力ある魅力的な都市・地域につくりかえる仕事に携わるかもしれません。

まちなかキャンパスは、若者の真の学びの場として貢献したいと考えています。つまり、信頼的対話・自由・教育は、岡山大学のみで実現できるものではありません。学生は、大学で学んだものを、岡山の地で発揮できる可能性を求めています。大学・都市・地域はそれをサポートすべきであり、その仕掛けが、まちなかキャンパスなのです。

3. 学生参加のまちづくり活動

～岡山市西川緑道公園界隈の活性化

岡山市からの依頼で、延べ200人を超える学生たちが岡山市の中心市街地『西川緑道公園』界隈へ何回も出向き、都市・交通調査やイベントモニターを行い、新しいまちの魅力づくりに向けた提案をしました。この活動は、岡山市の石田尚昭次長とNPO法人まちづくり推進機構岡山の徳田恭子理事、経済学部の中村良平先生、そして本センター



西川緑道界隈のフィールド調査

の千田俊樹先生、岩淵泰先生の指導のもと、学部を超えたスタイルで西川緑道公園界隈の交通量、駐車場調査や市民のイベントに対する評価調査、学生によるモニタリング調査など、学生たちが複合的な社会調査を行いました。

こうした経験により、基礎的な社会調査の知識を得ると同時に、実践的にまちの実態調査を行うことにより地域理解を深めました。そして事後学習として、教員と学生が熟議を通じてその分析結果を報告書にとりまとめ、岡山市に対して活性化策の提案を行いました。

さらに、地域のNPO団体が中心に進めているハレノミーノや満月Barなどのにぎわい創出イベントにも有志学生が参画し、調査活動やまち歩きで得た成果を学生自らが更なる実践展開に結び付けていきます。こうした調査や実践活動を継続し、大学とまちの長期的な関わりから岡山市の中心市街地活性化を実現させようとしています。

～中山間地域の医療ケアを考える

「中山間地域の医療ケア」をテーマにして岡山大学を中心に川崎医療福祉大学、新見公立大学、美作大学など複数の大学が大学や学部の壁を越えてワークショップ合宿を行いました。医学部の浜田淳先生のご指導のもとで、50人を超える学生が湯郷温泉を目指しました。現地では、地域住民の皆さんをはじめ自治体、社会福祉協議会など実際にケア活動を展開している専門家から日頃の活動状況や地域が抱



複数大学の学生が地域の課題を徹底議論

える課題について、レクチャーを頂きました。それを受けて、対話やワークショップを開始、議論は夜遅くから翌日まで続き、参加者全員で解決策を考えました。

こうして、事前学習、現地実践活動、事後学習による学びを経て、コミュニティの重要性を理解、自信を持って社会で活躍できる素養を身に付けます。また、こうして学生たちの知恵や教員の専門知識を地域社会で活かしながら、近隣大学と連携して包括的な医療・ケア体制を構築する活動を展開しています。学生たちはそれぞれの専門を磨きながら、高齢者のみならず、子どもの見守りなど地域コミュニティ全体を見つめ、安心、安全、ゆとりある地域の創造を目指しているのです。

4 留学生の学び

留学生の関係では、岡山の良き歴史や文化に触れるため、矢掛町の大名行列に参加しました。この企画は「サムライトリップ in 矢掛」と銘打ち、50人を超える留学生の参加がありました。現地では矢掛町の山野通彦町長（写真中央）をはじめ大勢の地域の皆さんが温かく迎えてくれました。



岡山の魅力を世界に発信する留学生のまち事業

留学生たちは、日本の伝統的な歴史・文化に触れることにより、互いに母国の歴史や文化を紹介し合うことにより、多文化共生の大切さを学びました。

このように地域総合研究センターでは、国際センターや言語教育センター、そして岡山県や岡山市、

経済界、NPOなどと連携して、留学生が地域へ出かけ、いろいろな人たちとふれあう機会を提供しています。歴史や文化、豊かな自然や食の体験により留学生が岡山のファンになってもらえるよう願っているのです。

5 教員、職員、学生の全員参加型 ～全学が連帯して学都研究を展開

森田ビジョンによって提起された「美しい学都」の創生に向け、教員が、さまざまな分野の学都研究を行っています。

今年度の研究テーマと主担当の教員を紹介します。

[1] 「地域と医療」

大学院医歯薬学総合研究科 浜田 淳 教授

[2] 「まちづくり・地域創生」

大学院環境生命科学研究科 氏原岳人 助教

[3] 「まちづくり・地域創生」

大学院社会文化科学研究科 中村良平 教授

[4] 「地域と教育・スポーツ」

スポーツ教育センター 高岡敦史 助教

[5] 「地域と教育」

大学院社会文化科学研究科 中富公一 教授

[6] 「学都データベース」

大学院社会文化科学研究科 平野正樹 教授

[7] 「地域と環境」

大学院自然科学研究科 富田栄二 教授

岡山大学には全部で11の学部があり、大きくは医歯薬学系、環境生命科学系、社会文化科学系、自然科学系そして教育系に分かれます。全部門の先生方が一堂に会して研究報告を行うことは、極めて珍しい試みです。報告会に参加した先生方も口々に「面白かった」と話しています。もちろん、学生たちも参加して興味津々に聞き入っていました。

～“3.11”を忘れない

岡山大学地域総合研究センターでは、教員だけでなく、学生、職員を対象に“まちづくり”に役立つ企画を公募して、選ばれた企画に自由に使える活動

予算をつけています。選ばれた学生のサークルや団体は、まちなかへ飛出し、地域の方や企業、他大学の学生と連携しながら、実践活動を進めています。

岡山県主催の岡山芸術回廊では、東北大学の学生と連携して東日本大震災の経験を活かして防災を考えるワークショップを旧内山下小学校で開催しました。そこでは両校がそれぞれ仙台市と岡山市の大型ハザードマップを作成して教室に展示しました。訪れた市民や子どもたちは、東北大学の学生から仙台市の被災状況やその後のボランティア活動の展開について、岡山大学の学生からは、夏休みやクリスマスに宮城や福島から多くの子どもたちを受け入れた応援活動の様子に聞き入っていました。



3.11の経験を活かした防災ワークショップ

こうして学生たちが主体となって被災地支援活動を展開しています。企画を担当した中桐康介君や石川美里さんなど、参加した学生たちは被災地で活動しているNPOやボランティアの方、そして岡山県のアートディレクターの方をはじめ大勢の社会人の皆さんと打ち合わせを重ね、また徹夜に近い準備作業を何日も続けて当日を迎えました。参加した学生たちは、学生時代の貴重な思い出ばかりでなく、社会へ羽ばたく自信を身につけてくれたと思います。

私たち地域総合研究センターにとっては、学生たちの真摯な姿と笑顔が何よりの励みです。こうした学生参加のまちづくり活動をサポートしているのが地域総合研究センターです。

気軽に部屋をのぞいてください。いつも笑顔の学生たちが集っています。

学士課程教育の構築

学士課程教育構築専門委員会委員長
教育開発センター 副センター長
佐々木 健二

岡山大学では、大学が取り組むべき最重要課題のひとつとして「学士課程教育の構築」を掲げ、種々検討を進めているところですが、このたび、本取り組みを推進する上で重要な役割を果たすコンピュータ・システムである「学士課程教育構築システム (Diploma Policy Qualification and Curriculum Management System: Q-cum system)」が完成し、平成 25 年度よりこのシステムを本格稼働させることになりました。本稿では、本学における「学士課程教育の構築」に向けての取り組み並びに「学士課程教育構築システム (Q-cum system)」について説明します。

1. 学士課程教育構築の必要性について

文部科学省の中央教育審議会（中教審）は良くご存知の方も多いと思いますが、日本の教育制度や教育内容のあり方を徹底的に議論し、国（文部科学省）にその結果を報告する任務を負い、日本の教育の基本的方向性を生み出す機関です。「ゆとり教育」やその見直し提言をしたのも中教審でした。その中教審が平成 20 年 12 月 24 日付けの『学士課程教育の構築に向けて』という答申書（以下、学士課程答申）をまとめ、次のような指摘をしました。

① 大学（学位）が保証する能力の水準が曖昧になりつつあることや学位そのものが国際的な通用性を失うことへの懸念

現在、大学とは何かという問題意識が希薄化し、ともすれば目先の学生確保の必要性が優先される傾向がある中、我が国の大学、学位が保証する能力の水準が曖昧になることや、大学が与える学位そのものが国際的な通用性を失うことへの懸念も強まっています。近年、各大学において教育内容・方法、成績評価、入試などの改革の取組が着実に進んできているものの、改革を通じて、学生の学習活動や学習成果の面で顕著な成果を上げてきたかという観点

では、いまだ改革が実質化していない面も少なくないというのも、そうした懸念を強める一因であるという指摘です。

② グローバル化する社会において、学士レベルの資質能力を備える人材養成は重要な課題

社会のグローバル化、大学のユニバーサル化という環境の変化の中で、大学が学生に対して、国際的通用性を備えた質の高い教育、社会人基礎力の育成に重点をおいた教育等を行うことが重要であり、また、保護者や高校生自身の大学進学に向けた熱意・意欲に応えることも大切なことです。さらに、様々な格差の拡大を懸念する声もある中、大学が幅広く多様な学生を受け入れ、学士課程教育を通じて、自立した市民や職業人として必要な能力を育成していくことが大学に求められるという指摘です。

③ 「学部教育」から「学士課程教育」への変換

「〇〇学部所属（卒業）」という考え方や「学部教育」などといった「組織」に着目した呼び方に象徴されるように、これまで大学は学部・学科や研究科といった組織に着目した整理がなされてきました。しかしながらこの学部・学科等の縦割りのシステム

が、ともすれば学生本位の教育活動の展開を妨げていると考えられることから、これを今後は、学部・大学院を通じて、学士・修士・博士・専門職学位といった学位を与える課程（プログラム）中心の考え方、即ち、「学士課程教育」という考え方に再整理して、教育を充実させる必要があるという指摘です。

以上のように、学士課程答申では、我が国の大学教育の現状が「学生の学士力に対する質保証が不十分」、「社会人として送り出す卒業生の基礎力が不足」、「学士課程プログラムが整備不足」であるため、この問題解決のためには学士課程教育構築の必要があり、学士力の質保証への取り組みとして、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー：AP）の三つの方針を明確にするとともに、教育課程への組織的取り組みを行い、教職員の職能を開発することが重要であるという提言を行いました。

2. 岡山大学における学士課程教育構築の取り組みと目的

全国の大学に先駆けて学生参画型教育改善を本格化させていた岡山大学（この活動については、OU-Voice No.9などを参照してください。）では、上記の学士課程答申を通じて色濃く出ている「学生中心」「学習者中心」という考え方が大学の方針とも一致するものでしたから、答申が出されると早速、それを実現するには具体的に何をどうすればよいか、の検討を始めました。即ち、大学としての学位授与の方針（DP）を軸に全教員が教育内容を根本的に見直し、それに合わせた教育課程編成・実施の方針（CP）に作り変え、あらためて入学者受入れの方針（AP）を再構成し、学士課程教育を構築していこうというものです。完成には何年もかかる壮大な計画であり、現在本学は、その大きな改革の真っ只中にいます。

本学が行おうとする学士課程教育構築の取り組みの目的は以下のとおりです。

(1) 教育の充実の観点から、学部・大学院を通じて、

学士・修士・博士・専門職学位といった学位を与える課程（プログラム）中心の考え方に整理し、学部段階の教育を「学士」を与えるに値するものに大学として構築し直す。

- (2) 今までは、何を教えるかという教師目線だった教育を、何ができるようになったかという質的保証を目指した学生目線に変える（学生が主語）。
- (3) 岡山大学の学位授与の方針（DP）に合致した卒業生を社会に送り出す。

3. 学士課程教育構築の取り組みにおける岡山大学の特色

本学では学士課程教育の構築のため、大学並びに各学部における学位授与の方針（DP）、教育課程編成・実施の方針（CP）及び入学者受入れの方針（AP）を明確に定めた上で、体系的なカリキュラムの整備とそれに沿った教育の実施を行います。さらに、より円滑にそれらを実施するための資料づくりを、本学が独自に構築したコンピュータ・システムである「学士課程教育構築システム（Q-cum system）」で行います。このQ-cum systemは、学士課程教育構築を推進する原動力として各学部等に置く「ファカルティ・コーディネーター（Faculty Coordinator: FC）」とともに岡山大学の学士課程教育構築の大きな特色です。

このQ-cum systemが稼働すれば、以下の事が可能になります。

- ① **大学・学部・学科は**
 - ・DPとカリキュラムとの関連性を把握できる。
 - ・カリキュラムの見直しと体系化が容易にできる。
 - ・社会に対して学士力保証の客観的根拠を提示できる。
- ② **教員は**
 - ・授業内容・方法を容易に改善できる。
- ③ **学生は**
 - ・学士力評価チャート（後述、学士力達成状況をチャート図で示すもの）によって学士力を視覚的に把握できる。

・履修相談など学生と教員とのふれあいへの糸口となる。

さらに、毎年度、学士力評価チャート等が提供されますので、PDCA サイクル（ある活動を円滑に進める手法の一つで、Plan（計画）→ Do（実施）→ Check（評価）→ Act（改善）の4段階を繰り返すことによって、活動を継続的に改善していくというものです。）として学士課程教育の改善が継続的に行われることが容易になります。

4. 学士課程教育構築の推進体制

本学における学士課程教育構築の取り組みを円滑に推進させるために、以下の体制を整えています。

(1) 学士課程教育構築専門委員会

教育担当副学長が統括する教育開発センター内に学士課程教育構築専門委員会を設置し、学士課程教育構築を実現するための具体的な方策を検討しています。本専門委員会の検討結果は、本専門委員会の構成メンバーであるファカルティ・コーディネーター（FC）が各学部等へ伝える仕組みになっています。

岡山大学における学士課程教育構築の取り組みは下記のアドレスでもご覧いただけます。

<http://cfid.cc.okayama-u.ac.jp/inside/diploma.html>

(2) ファカルティ・コーディネーター（FC）

学部における学士課程教育構築の取り組みを円滑に推進させるため、各学部等において教育担当副学部長1人と事務職員1人以上の他、1学科1人以上の教員がFCとして任命されており、うち、1人が学士課程教育構築専門委員会の構成員となっています。FCは学士課程教育構築専門委員会と各学部等との連携を図るとともに、学部運営組織と連携し、各学部のDP、CP、AP作成作業やカリキュラム改善のリーダー的役割を担っています。

5. 岡山大学のDP

DPは、大学全体や学部・学科等の教育研究上の目的、学位授与の方針を定めたものであり、本学は、これを定め、学内外に対して積極的に公開しています。本学のDPの特徴的な項目として「自己実現力」があります。これは正課外活動や社会活動を積極的に行うことで卒業後も生涯学習を継続できる人材の育成を狙ったものです。学びは授業の中にのみあるわけではありません。生きていること全てが学びにつながると言っても過言ではないのです。友人や教師との何気ない会話の中にさえ、潜在的な能力開発の芽が潜んでいるのです。大学が学びを広く捉えようとしているのに、学生の方が狭い学習観にとらわれていては伸びるはずの力も伸びません。逆に言えば、学生がその気になれば、本学のDPの実現もより確実になると考えています。

岡山大学ディプロマ・ポリシー

平成 22 年 4 月 19 日
学 長 裁 定

岡山大学のディプロマ・ポリシーは、学生が本学を卒業するにあたって、以下の学士力を基本的に習得し、知の継承者となることを保証するための目標である。

・人間性に富む豊かな教養【教養】

自然や社会の多様な問題に対して関心を持ち、主体的な問題解決に向けての論理的思考力・判断力・創造力を有し、先人の足跡に学び、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につけている。

・目的につながる専門性【専門性】

専門的学識と次代を担う技術を身につけていると共に、それらと自然・社会とのつながりを意識し、社会に貢献できる。

・効果的に活用できる情報力【情報力】

必要に応じて自ら情報を収集・分析し、正しく活用できる能力を有すると共に、効果的に情報発信できる。

・時代と社会をリードする行動力【行動力】

グローバル化に対応した国際感覚や言語力と共に、社会生活に求められるコミュニケーション能力を有し、地球規模から地域社会に至る共生のために、的確に行動できる。

・生涯に亘る自己実現力【自己実現力】

スポーツ・文化活動等に親しむことを含めて、自立した個人として日々を享受する姿勢を一層高め、生涯に亘って自己の成長を追求できる。

6. 「学士課程教育構築システム

(Q-cum system)」について

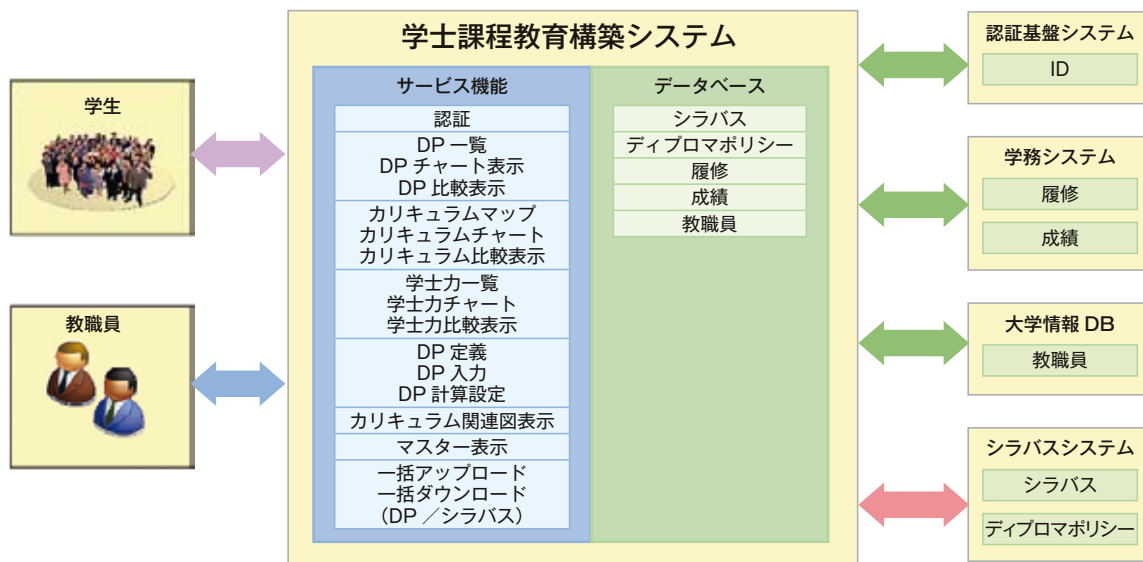
(1) システムの概要

学士課程教育構築に当たり、DP、CPに基づいて、カリキュラム・教育内容の抜本的見直しを行うと共に、個々の学生の能力を最大限引き出す教育プログラムを導入し、学生の学士力を向上させる仕組みを構築する必要がありますが、そのためには、学生へ提供する教育の内容と成果を可能な限り客観的な指標を用いて可視化することが極めて重要であると考えます。

Q-cum system は、学士課程教育の内容と目標達成度の可視化を実現し、教育内容やカリキュラムの持続的な検証と改善を可能とする体制を構築するためのものであり、シラバス入力システムと学務システムとを連動させ、カリキュラム改善のための基礎資料となる「科目分布表」及び「科目分布チャート」を作成する科目分布システム、並びに学生のための学士力評価チャートを作成する学士力チャートシステムで構成されます。

システム概要

ディプロマポリシーに従ったカリキュラムの構成及び学士力の評価、学士力向上のために必要となる学士課程教育構築システムを構築する



(2) 科目分布システム

(科目分布表及び科目分布チャート)

カリキュラム改善のための基礎資料となる科目分布表及び科目分布チャートは、科目分布システムにより作成され、学部・学科 DP とその学部・学科が開講する授業科目との関連付けを可視化して表示します。

このシステムは、シラバス入力システム（サイボウズ・デデエ）を活用して、教員が担当授業科目と学部・学科 DP との関連をシラバスに記載することにより、学部・学科ごとの科目分布表及び科目分布チャートが作成できるようにしたものです。カリキュラム改善のための基礎資料を手作業等で作成すると多大な時間と労力を要し、継続的にカリキュラ

科目分布システム（科目分布表及び科目分布チャート）

(データ入力(教職員による操作))

a) 岡山大DPと学部(学科)DPの関連付け

b) 教科内容と学部(学科)DPとの関連づけをシラバスに記載(サイボウズ)

岡山大学の DP	教養	専門性	情報力	行動力	自己実現力				
○○学部(学科)の DP	教養 -1	教養 -2	専門性 -1	専門性 -2	専門性 -3	情報力 -1	情報力 -2	行動力	自己実現力
○○学Ⅰ	10		60			30			20
○○学Ⅱ		10		70					
.....

c) 学部(学科)の科目分布表の作成

d) 科目分布チャート(教養・専門)の作成

支援ツールにより変換

カリキュラムの科目バランスの確認やカリキュラムそのものの改善が容易

ムの改善を図るには教員にとって大きな負担となります。本学が開発した科目分布システムは、この難点を克服するものであり、学部・学科 DP に照らしてみた時、授業科目の新設や改廃が、カリキュラム内容にどのように影響するかをコンピューター処理により即座に把握することを可能にしています。

(3) 学士力チャートシステム

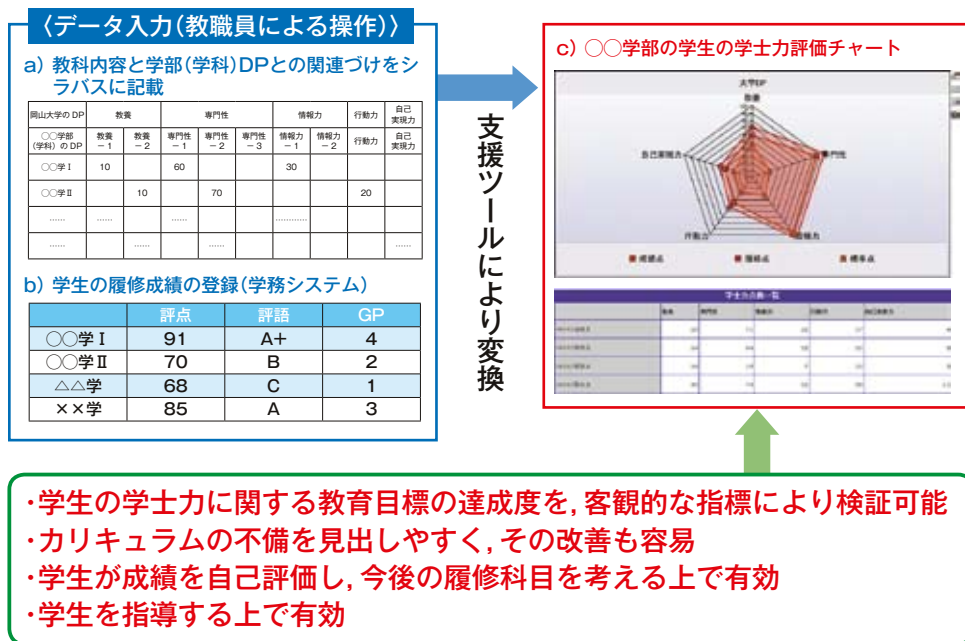
(学士力評価チャート作成システム)

学士力評価チャートは、学士力チャートシステムにより作成され、大学 DP や学部・学科 DP に関する

学生の成績達成度をレーダーチャート等のグラフで表示するものです。

このシステムは、科目分布システムと学務システム（学生の単位取得状況の集計）に連動しており、個々の学生の学士力達成状況を一目で分かるようにしたものです。さらに、大学の全授業科目が大学 DP 及び学部学科 DP と関連付けられていることから、学士力に関する教育目標の達成度を客観的な指標により検証が可能です。

学士力チャートシステム（学士力評価チャート作成システム）



7. 最後に

上記で説明しました Q-cum system が平成 25 年度の新入生を対象にいよいよ本格稼働することになっています。しかし、本システムのさらなるブラッシュアップや学習到達度評価の厳格化に向けての検討等々、今後の課題も山積しております。Q-cum system を利用し、カリキュラムや授業改善、学生指導の見直しを行い、学士課程教育の質保証という

観点から PDCA サイクルを動かし、具体的な教育改善に真摯に取り組んでこそ初めて学士課程教育構築の道が開かれるということを忘れてはなりません。

本学の学士課程教育構築のため、今後とも学生諸君、教職員諸氏のご理解とご協力をお願いいたします。

平成 25 年 4 月から イングリッシュ・カフェが新しくなります!

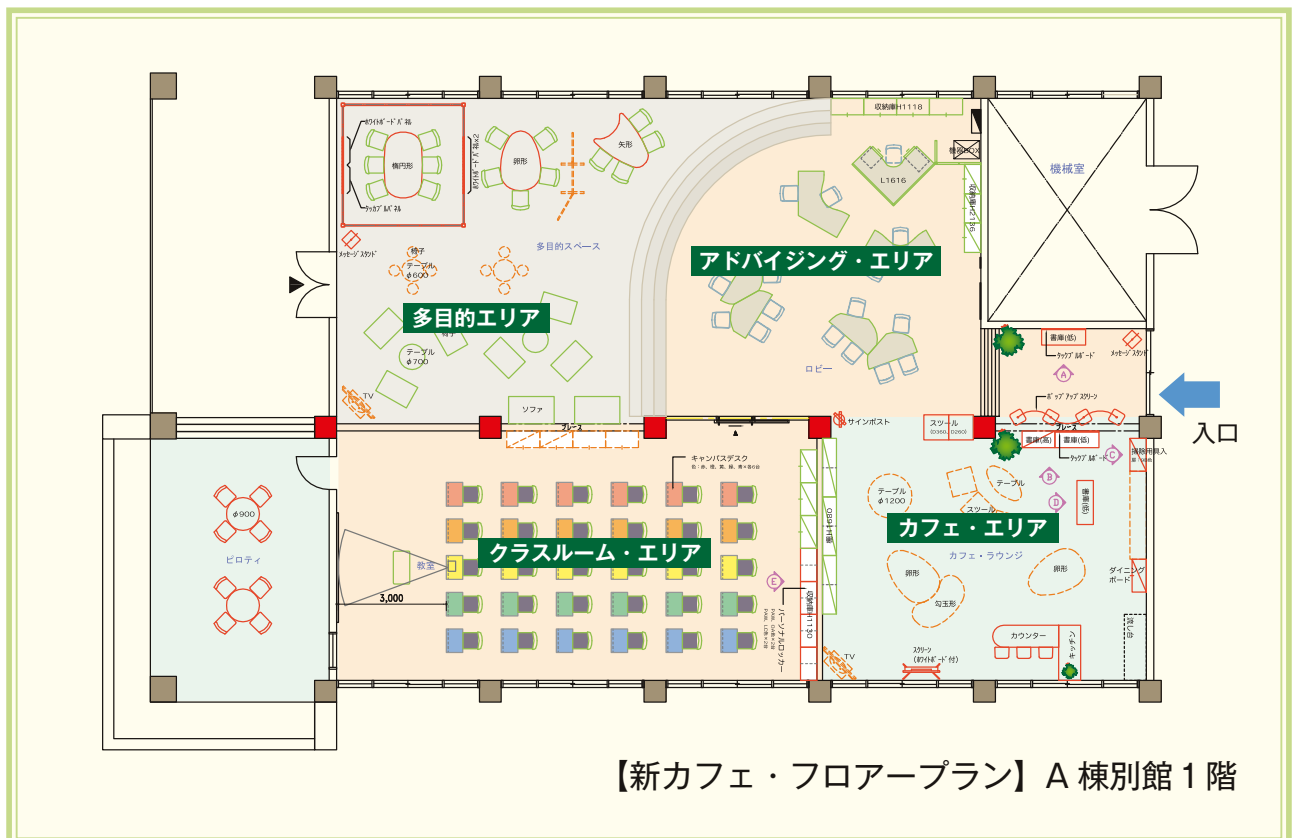
言語教育センター 准教授
宇塚 万里子

平成22年5月にオープンしたイングリッシュ・カフェも今年で5年目を迎えました。多くの日本人学生や留学生でにぎわうカフェの利用者数は順調にその数を伸ばし続け、このたびこれまでの大学会館一階大学生協喫茶indentの手狭なスペースから**一般教育棟A棟 別館**へと引っ越すことになりました。

新しいスペースは、現在のカフェの約3倍の広さ

になる上、新たに、カフェ・エリア、アドバイジング・エリア、多目的エリア、そしてクラスルーム・エリアの4つのエリアに分かれ、それぞれ新しい機能が追加されます。

今まで以上に、親しみやすく利用しやすい場所になるよう先輩学生や留学生と一緒にデザインしました。ここでその概要を紹介いたします。



1. カフェ・エリア

今までのイングリッシュ・カフェのように、テーブルを囲んで話をしたり、コンピューターを使って作業したり、リラックスしたりと自由なスペースです。CNNやNHK BSなどの二カ国語放送、英語の原書や英語学習本、Japan Times, Asahi Weekly, ST Weeklyなどの英字新聞やTimes, News Week, National Geography, Internationalist, Hiragana Times, Readers Digest, English Journal, CNNなどの雑誌も閲覧できます。

さらに、カフェ・エリアでは、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、日本語カフェも週1～2回開催されますので、英語以外の外国語を気軽に学びたい人や留学生と日本語で話したい人も大歓迎です！

2. アドバイジング・エリア

ここでは、言語教育センターの先生によるオフィスアワーや先輩学生、留学生によるレッスンを行います。また、平成25年度からは新たに、英文ライティングの相談コーナーもスタートする予定です。その他、リファレンス専用のDVDやノートパソコンなども保管していますので、気軽に立ち寄ってみてください。

3. 多目的エリア

ここでは、6～30人までのグループワークができるプロジェクト・スペースと2～15人までの会話レッスンができるオープンスペースがあります。また、他のエリアと比べて一段高いスペースになっているので、少し落ち着いて勉強したい時にもお勧めです。

4. クラブルーム・エリア

グローバル人材特別コースや上級英語、TOEFL対策レッスンを行います。30台のコンピューターと自由に動かせる机・椅子を備えた、岡大初の「教室らしくない教室」です。

授業やカフェレッスンで使用していない時間帯は、誰でも自由に利用できます。

Independent Studyやe-Learning、集中してじっくり勉強したい時などに活用してください。

学期のはじめは
新しい友達をつくるチャンス!

カフェを利用する 学生たちの声

“ **Viens nous rencontrer** ”
by Maëlle

“ **Let's be friends** ”
by Steven

“ **Don't be shy!** ”
by Naomi-sensei



この機会にあなたもカフェデビューしてみませんか？

私達と一緒に、楽しいキャンパスライフを送りましょう。

待ってます♥♥♥

by EC美人秘書Y (経済4年生)

憧れ続ける岡山大学

中桐 康介

文学部人文学科（2013年3月卒業見込）
西日本放送株式会社（2013年4月入社予定）

岡山大学に入りたくてたまらなかった。ずっと憧れていた。高校3年生の冬、合格を決めたあの日のことは今でも鮮明に憶えている。生まれも育ちも岡山である私は、岡山大学に強いこだわりがあったのだ。恥ずかしながら、今でも岡山大学のシンボルである附属図書館時計台を見ると、胸にこみ上げるものがある。

そんな「岡大ファン」の私は入学後、岡大の魅力を地域に伝えようと「津島キャンパスウォークツアー」のスタッフになった。来場者の方と一緒に津島キャンパス内を歩き、見どころを紹介するツアーである。学生の視点から大学を紹介することが好評を得ており、これまで多くの参加者の方にお越しいただいている。中でも印象的だったのは、私が2年生の時にご案内した高校生のお客さんだ。岡大志望の受験生で、大学内施設のことはもちろん受験のことや学生生活のこと、どの話にも真剣に耳を傾けてくれた。彼女は、岡大を目指している頃の自分を思い出させてくれ、私自身刺激を受けたのを覚えている。

彼女はその後、見事岡大合格を決め、さらに先日キャンパスツアーのスタッフにも加わってくれた。自分が岡大の魅力を伝えたお客さんが、仲間として一緒にツアーが出来ることが非常に嬉しい。今度は彼女が岡大志望の高校生に岡大の魅力を伝える番だ。

4年生になってからは、岡大の魅力を地域に伝えるだけではなく、地域と一緒に大学を盛り上げるべく「地域総合研究センター AGORA」の活動にも関わらせていただいた。その中で私が取り組んだのは、



岡山県が主催する「岡山芸術回廊」への出展だ。学生企画チームを立ち上げ、行政や県内のアーティストと関わりを持ちながら、学生が学生らしく学生にしかできないことを企画・運営した。旧内山下小学校（現在閉校）を舞台に、朗読劇やジャズバーを開催し、地域の方々に多く足を運んでいただいた。学外に飛び出し、岡大の仲間と地域の方々と一緒に「岡山芸術回廊」に関われたことは一生の思い出である。

岡山大学の内と外—キャンパスツアーと岡山芸術回廊—で走り続けた4年間だった。岡大にはたくさんの“チャンス”をもらったように思う。上記に挙げた活動以外にも、部活動やキャリア開発センターでの活動など、大学生活に彩りを加えるための“チャンス”が学内には多く転がっていた。

そんな岡山大学ともお別れである。通い続け、憧れ続けた4年間だった。大学に入る前と入った後では、附属図書館時計台の見え方が変わったように、卒業後はまた見え方が変わるのだろう。少し寂しい気もするが、それもまた楽しみである。

岡山大学を卒業された方に、
本学在学の方達へのメッセージをお願いします。
皆さんの大学生活に役立てていただければと願っています。

就職は何のために？

金川 未希

経済学部経済学科（2013年3月卒業見込）
日清食品株式会社（2013年4月入社予定）

「将来何をしたいのか？」就職活動をするにあたって、みなさんが一度は直面する問題だと思います。考えても、イメージが湧かない方が多いのではないのでしょうか。そんなときは、「なぜ働くのか？」などと、違う視点に置き換えて考えると思い浮かびやすいかもしれません。

数多くある中から私は、食品・トイレタリー・化粧品を中心に、そして所属学部が経済学部ということもあり、金融や保険にもエントリーしました。理由は二つあります。一つ目は、イメージです。私は、「働く」＝「生きるため」、 「生きるため」＝「衣・食・住」と連想したことがあり、生きるための食品関連メーカー、日常生活には欠かせないトイレタリーメーカー、そして、女性だけでなく男性にも関わりのある化粧品メーカーを選択しました。二つ目は、インターンシップの商品企画の実習です。実際に商品の開発に携わるという体験から、誰にでもわかりやすいもの、結果が目に見えるものを手がけてみたいと考えるようになったのです。

日清食品に決めたのは、内定したからという理由もありますが、一番はやはりその事業内容や企業方針、社風に惹かれたからです。この会社のエントリーシートはほとんど風変わりな内容で、書くのがちょっぴり大変!! そんなスタートでしたが、面接では「将来を見据えた質問」から「いかに自分という人間を理解しているかを問うもの」まで、自分という人間の「なかみ」が重視されました。そして、何よりの魅力は日本だけに限らず海外でも活躍する機会がたくさんあることでした。入社して、いつか海



外勤務にチャレンジし、さまざまな国の市場で、現地の人々に愛されるヒット商品の開発に携わることが私の大きな夢です。

会社選びをする時に、事業規模はもちろん重視すべきことのひとつですが、「ひと」ほど大切なものはないと私は考えます。

内定式やいくつかの社内研修会に参加すると、周りを見渡す限り、先輩社員や同期に限らず本当に個性的な人であふれていると感じます。まだ入社前ですが、人を成長させるのは、やはり人だと気付かされることばかりです。尊敬できる人が多い刺激的な環境は、自分の成長をも後押ししてくれるような気がします。

就職活動というと、みなさんは大変でつらいというイメージがあると思います。確かに私もよく落ち込んでいました。しかし、何を選択し、どう向き合っていくかは自分の責任です。まずは自分の選んだものには、後悔しないよう真剣に取り組んでください。そして、何があっても乗り越えようと努力する姿勢と、自分を支えてくれる仲間を見つけてください。それは両親や友人だけでなく、就職活動で知り合った同じ目標を持った就活学生かもしれません。決して甘くはないけれど、就職活動を通じて学ぶものがきっとあるはずです。



海外の大学紹介

ダラット大学東洋学部 日本学科の紹介

言語教育センター 教授
ダラット大学東洋学部日本学科客員教授
酒井 峰男

1. 岡山からベトナムへ

岡山大学は2012年5月1日現在、世界34ヶ国と地域との間で大学間協定(73件)、学部間協定(118件)を結んでいる。私が現在、長期出張しているここベトナムとの間では、4大学との間に大学間協定がある。特に、フエ大学の大学院特別コースは、本学の国際交流の柱になっている事業である。岡山大学からダラット大学東洋学部日本学科への日本語教師派遣事業は、地味ではあるが、すでに5年目を迎えている。私は第2次派遣により、2年半の予定で赴任し、2013年1月帰国した。私の後任には、社会人学生であった岡山大学副専攻コース(日本語教育コース)第一期生が、長期派遣の任務を務めることになっている。この記事を読んで、「私もベトナムでの日本語教員を志したい」という学生が出てくることを願っている。“長期海外教員研修制度”とも呼ぶべきこの教師派遣事業は、体験型の教員研修の場を現地で作ろうとするもので、大変ユニークなものである。

2. 中部高原地帯のダラット市

ここは住みやすさではベトナム一である。標高1,500mの高原地帯にあり、ネパールの首都カトマンズより高い標高にある。人口21万人の街で、野菜、花(特にバラ)、コーヒー、ゴムの生産で有名である。新鮮な牛乳を供給できるのは、ベトナムではダラット近郊しかない。農業生産額はベトナム第1位である。2012年に入ってから、日本から来た若者が、ダラット近郊でチーズ作り、トマト栽培、菊栽培等に就いている。これは今までにはなかった現象である。毎年12月には花フェスティバルが開催される。ダラット市



はハネムーンのメッカでもあり、ここラムドン県には毎年、内外から250万人もの観光客が訪れる。(ベトナムを訪れる日本人観光客数は年間42万人である。)

一年中高原地帯らしいカラッと晴れた晴天が、乾季にはもちろん雨季(春から夏)にも現れる。室内の温度は常時20℃前後なので冷房も暖房も要らない。インドシナ半島を植民地として約100年もの間統治していたフランスがダラットを保養地としていたのもうなずける。ダラットはホーチミン市からは300km(バスで8時間)の距離にある。空港、幹線道路が地方の割には良く整備されている。ハノイ、ホーチミン、ダナンへの定期便は毎日ある。日本との時差はマイナス2時間で、関西空港からの飛行時間は5時間弱なので、朝10時半の飛行機で発てば、夕食には間に合う。市内の交通手段はバイクかタクシーかバスである。自転車はあまり見かけない。起伏の多い地形だからであろう。



ダラット大学の教室から見える美しい風景

3. ベトナムにおける 日本語教育について

ダラット大学のキャンパスは30 m級の松が生い茂る丘陵の上にある。フランスの植民地時代にカトリックの修道院が建てられていたところだ。市内から13km離れた標高2,400mのランピアン山が間近に見える。学生数は夜間を含めて約23,000人、教職員数は約400人である(岡大学生数:約13,500人、教職員数:約2,600人)。学部はそろっているが、学科は一つだけの所が多い。医歯薬学系学部はない。女子学生が70%を占める。留学生は韓国人学生(語学研修生が主)しかいないため、キャンパスにおける学生からの私への挨拶は「アニョンハセヨ!」である。日本人学生はいないのだから致し方ない。英語はあまり通じない。

ホーチミン市の20%の小学校では、最近、3年生からの英語教育が始まっており、2018年までには全国の小学校で英語が必須化される予定である。ちなみに、ベトナムの高等教育進学率は15%で、成人識字率は90%以上である。国の発展に教育は欠かせない。

ダラット大学(1958年設立)は、ベトナムでは1976年まではハノイ国家大学、フエ大学等と並んで、トップ4に入っていた。フランス人の子弟は主にダラット大学で学んでいたそうである。ここ東洋学部(ベトナム学科、韓国学科、日本学科)日本学科の設立は2007年で、新入生38人とともに本格的な日本語教育

が始まった。現在は総学生数約180人となっている。日本学科の教員数はベトナム人2人、日本人4人である。2012年7月から、日本の日本語学校2校から日本人教員3人がここ日本学科に長期派遣された。と同時に「越日文化教育交流事務所」が学内に設立され、朝日奨学金制度を通して、新聞配達をしながら日本で勉強できる環境を学生達に提供しようとしている。これは日本の大学にはできないアプローチである。近い将来、4年生の男子学生から3~4人が選ばれ日本に行くことになるかもしれない。卒業後、日本で働きたい、在ベトナム日系企業で働きたいと願う日本学科の学生は多いが、思うようには日本語習得が進まず、進路に不安を感じている学生が多い。この制度はこれからのダラット大学日本学科の大きな目玉商品になる可能性を秘めている。

現在、ベトナムにおける日本語学習者は3万人を超え、日本語を教えている高等教育機関は大学で31校10,500人、学校教育機関以外では68校17,500人となっている。中等教育機関でも4都市(ハノイ、フエ、ダナン、ホーチミン)において、2003年から10年計画で試行的に日本語教育が始まっており、中学校12校、高校3校で約3,200人が日本語教育を受けている。これらの生徒達は、中学校4年間と高校3年間の計7年間日本語を勉強して大学へ入学してくるので、現在、大学のベトナム人日本語教員の質の向上が急がれている。



新入生歓迎会(後列左から6番目が筆者) 2012年9月撮影

4. 学生気質

一般的なベトナム人の特徴として、あきらめない粘り強さ、団結力、世界一の愛国心、やさしさ、家族の絆、年寄りへの気遣い、女性の活発さ、歌や踊りへの高い関心などが挙げられる。ここでは、学生の気質について触れてみたい。

まずはプラス面から述べる。

① コミュニケーション能力が高い

ベトナムスマイルである。この効果は大きい。無償のスマイルに慣れていない私は、こういう挨拶をされると、それだけでものすごく得をしたような気分になる。(損得を考えるとところが情けないが。)

② 紳士的で女性に優しい男子学生たち

授業中、気分が悪くなった女子学生が気を失うことが学期中に数回起こる。その時は男子学生が文字通り病人を介抱し、バイクがあれば3人乗り4人乗りで家まで送り届ける。(学生たちは皆、大学の周りの民間の学生寮に住んでいる。)これも日本では見られない光景だ。なお、保健室を利用することはあまりない。

また、学生と一緒に車道を渡る時など、すぐ私の腕をとって支えてくれようとする。ここでは64歳は確実に老人なのだ。

次に、マイナス面を述べる。

① カンニングの問題

相互援助、団結の精神が道徳として初中等学校教育で根付いているため、この精神は試験時でさえ、遺憾無く発揮される。ベトナム人の先生はあまり厳しく監督せず、斜め前や横をチラチラ見ている学生を見つけると、「〇〇さん！」と声をかけるだけだ。

② ゴミをいたるところに捨てる。

ダラットでは、街中はもちろん、キャンパスにもゴミが多い。街中の大衆レストランにおいてもテーブルの下にゴミ箱がない場合、男子学生の中には、骨であろうと、紙であろうと、何でも適当に床に捨てる者がいる。私が鶏の骨を皿におくと、学生から妙な顔をされる。一旦、口の中に入れた物をまた口から出して人前に置くのだから、考えてみれば彼らのやり方にも一理ある。特に、農村出身の男子学生



女子サッカーの試合にて

が多く捨てるように見受けられる。

私は岡山大学の学生たちに、ぜひともベトナムでいろいろ経験を積んでもらいたいと思っている。日本人の若者がいきなり欧米諸国で留学、仕事するのはきついかもかもしれないので、まずは親日的なベトナムで十分異文化を味わってから、さらに厳しい環境の西洋に行くのが良いと思っている。今後、ベトナムは日本の最高のパートナーになるであろう。



大学サッカーグラウンドからのランピアン山

- ベトナムに興味を持たれた方へのお薦めの本
- ・『ヴェトナム新時代—豊かさへの模索』
坪井善明著 (2008年岩波新書)
 - ・『ヴェトナム語の世界』
富田健次著 (2000年大学書林)
 - ・『旅の指差し会話帳①ベトナム』
池田浩明緒 (2009年情報センター出版局)

e-ラーニングコースとマイクロソフト IT アカデミープログラム

—マイクロソフト IT アカデミーで ICT スキルを伸ばそう！—

情報統括センター 教授
ひえだ たかし
稗田 隆

1. はじめに

みなさんは「情報統括センター」をご存知でしょうか。津島地区の附属図書館の東側、マスカットユニオンの北側に奥まって立っています。情報実習室があるので、情報処理入門などの講義で訪れたことがあると思います。

当センターでは、情報実習室の管理のほか、先生方や職員の方々の業務を支える情報環境の整備・運用などを行っています。近年は、学生のみなさんの ICT (Information and Communication Technology) スキル向上に役立つさまざまなサービスの提供に力を入れています。その一つが今回ご紹介する「マイクロソフト IT アカデミープログラム」です。

2. マイクロソフト IT アカデミープログラムとは

「マイクロソフト IT アカデミープログラム」とは、Windows や Word などの Office ソフトを販売しているマイクロソフト(株)が教育機関向けに開発した教育プログラムであり、本学は平成 24 年度から提供を受けています。本学学生ならだれでも、当プログラムを使って ICT スキルを伸ばせます。

3. プログラム受講方法

当センターホームページの「Microsoft IT Academy Program member」バナーをクリックしてください(図1)。

表示されるページでサービスの開始方法等を記載しています。

① e-ラーニング(図2)

Word や Excel を実際に使いながら使用法について学びます。

初級から上級までバラエティ豊かなコースが多言語で用意されているので、自分のレベルに合わせた学習が可能です。一度登録すれば、情報実習室など学内スペースのほか、自宅でも利用可能です。なお、e-ラーニングの利用にはマイクロソフトのアカウントが必要です。

② マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)試験の学内・割引受験

Office ソフトの利用スキルが客観的に証明できる国際資格「マイクロソフトオフィススペシャリスト試験」を、スペシャリストとエキスパートともに特



図1

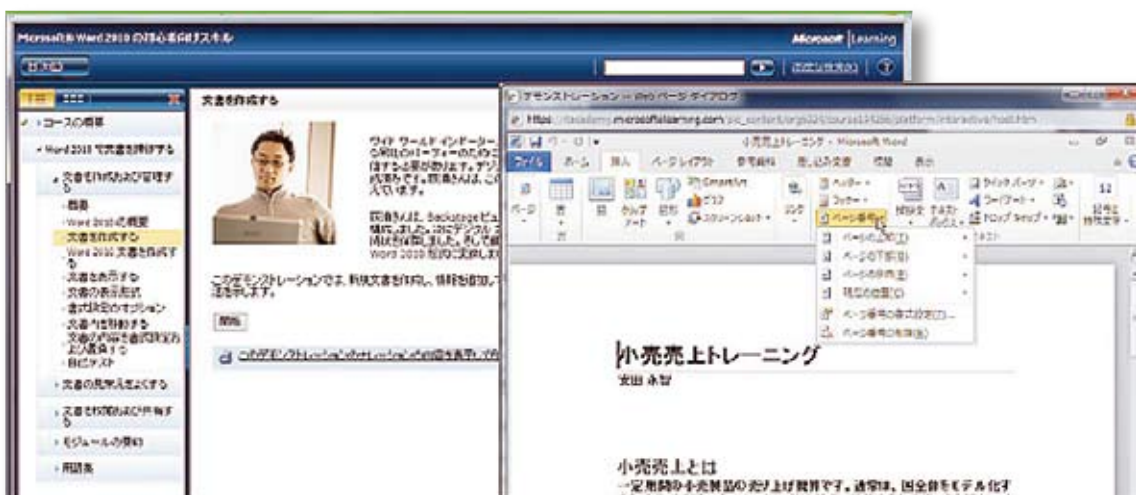


図2 e-ラーニング画面例

別価格 8,000 円（通常価格：スペシャリストは1科目につき 10,290 円（税込）、エキスパートは1科目につき 12,390 円（税込））で受験できます。しかも試験会場は当センター情報実習室です。当センターでテキストの貸出等も行っています。また、学年歴にあわせてみなさんの受験しやすい日程で実施しています。勉強の総仕上げに受験を強くお勧めします。

③ その他のマイクロソフト IT アカデミーの特典

マイクロソフトの認定資格としては、MOS 以外に、「マイクロソフト認定アソシエイト」(MCA)、「マイクロソフトテクノロジーアソシエイト」(MTA)などが用意されています。MCA を取得すれば、社会人として必要な基礎的な ICT を理解し、ICT 技術を活用していけるスキルを持っていると認定されます。また、MTA は学生が今後、ICT 分野のキャリアの第一歩を踏み出すのに十分な知識とスキルが身につく資格と位置づけられています。これらの認定試験は通常の半額程度の特別価格で受験可能です。e-ラーニングにより学習コンテンツを提供しています。

4. ICT スキルを就職活動の武器に

MOS がなぜ必要なのか説明したいと思います。現代社会では、ICT が社会を支えるインフラの一つになっており、社会で活躍するには ICT スキルの修得が必須です。実際、企業の採用担当者の 37% が「Office 等の活用によるドキュメント作成能力は新卒者が既に身につけていて当然」と考えていることを示すデータがあります（図3）。

みなさんは、物心ついたころからメールなどを使いこなし、Office ソフト使用法も自然に修得して、ICT で困ったことがあってもすぐに解決するだけのスキルは持っていると思います。しかし、それを企業の面接官に言葉で説明して納得させるのは至難の業でしょう。その点、客観的に Office ソフトのスキルを証明できる MOS を持っていれば、説得力が増すのではないのでしょうか。MOS は就職活動でライバルに一步差をつける「武器」となるのです。

また、MOS は米国で作成された問題が 150 か国語以上に翻訳され、世界中で同一内容の試験が実施されている国際資格です。毎年世界大会も開催され、世界中の学生が技術を競っています。MOS 資格を取得すれば、活躍の舞台が世界へと広がります。

1, 2 年生の早い時期に MOS を取得し、学生時代に MCA, MTA へステップアップしておくのもよいのではないのでしょうか。

5. おわりに

当センターでは、当プログラムのほかにも Office2010 クイックガイドをはじめとするマイクロソフトオフィストレーニングキットの公開など、学生のみなさんが ICT スキルを向上させるのに役立つサービスを用意しています。当センターホームページに掲載していますので、確認してください。

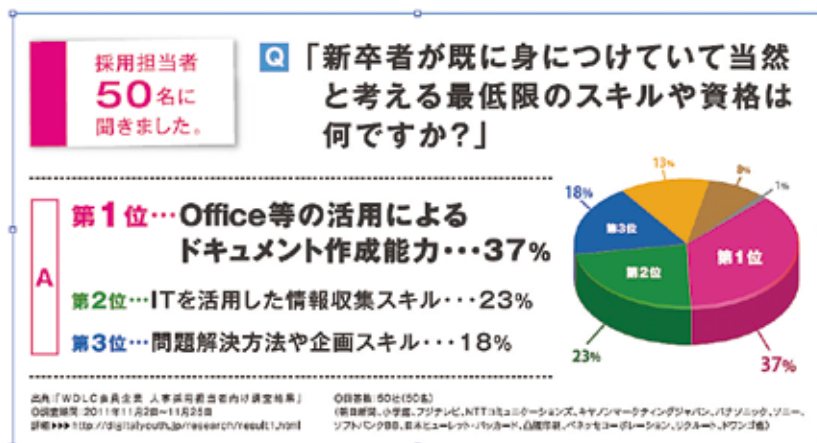


図3：人事採用担当者向け調査結果 情報統括センターニュースレター第5号より

岡山大学の短期語学研修プログラム

国際センター 助教

橋口 三千代

1. はじめに

岡山大学では、大学全体で教育・研究の両面における国際化を推進していますが、その中心的役割を担っているのが国際センターです。今回は、国際センターが主催する国際交流プログラムの中から、皆さんにとってより身近な短期語学研修プログラムを紹介したいと思います。短期語学研修プログラムとは、春休みや夏休みを利用して特定の言語を海外の大学等で集中的に学習する研修のことです。国際センターはこのプログラムの実施をとおして、皆さんの初めての海外経験、語学力向上を支援しています。

2. 各コースの概要

国際センターでは、平成24年度に4つの語学研修（夏期＝米準州・グアム大学、豪州・アデレード大学、春期＝アデレード大学、米国・ポートランド大学）を実施しました。これらの語学研修では、交換留学と異なり、研修先となる大学にて開講されている一般の授業を聴講することはありません。参加者は現地到着後にクラス分けテストを受け、その後、毎日約4時間の学習プログラムを受講することで、語学力の向上を図ります。各コースの概要を説明しますと、まずグアム研修では、岡山大学の学生を対象として独自のクラスを開講しており、英語の学習はもちろんのこと、比較文化に関する講義、参加学生による現地の人々との交流といった異文化を実際に体験する機会も多く設けています。

アデレード大学での研修は、他国からの参加学生も交えた混合クラスで行われます。月曜日から木曜日までは多国籍の学生達と共に英語学習を行い、金曜日は研修先の文化について学習するオーストラリア学もしくは実践的なTOEFL対策講座を参加者が選択して受講します。ポートランド大学での研修では、他大学の日本人学生との混合クラスで英語を学

びます。文化またはビジネスクラスを選択に加え、金曜はスキーやスノーボードといった課外活動が行われます。



グアム大学での語学研修

グアム研修とアデレード研修、ポートランド研修の違いは、派遣期間の長さや滞在方法にあります。グアム研修では岡山大学からの参加者全員が2週間同じホテルで過ごしますが、アデレード研修、ポートランド研修では参加者それぞれが現地の家庭に1ヶ月間ホームステイします。そのため、グアム研修参加者は海外初心者にとって安心な面が多く、アデレード研修、ポートランド研修参加者は、ホストファミリーとの英語によるコミュニケーションを通して、現地の暮らしや文化について学び、語学力向上への刺激をより多く受けることができます。授業以外にも英語で話す機会が増えるため、短期間での語学力アップが望めます。

3. 国際センターの語学研修の特徴

国際センターが主催する語学研修では、皆さんが安心して海外の地にて学習できるよう充実したサポート体制を整えています。まず、語学研修参加前

にオリエンテーションを開催して、研修先の情報や事務手続きに関する説明を行うほか、参加者をグループ分けして、安全対策やホストファミリーとのトラブル発生時の対応など海外での生活を送る際に起こりうる問題について事前に学習する機会を設けることで、海外への不安を少しでも和らげるよう心がけています。

研修出発後も参加者の皆さんが一番不安を感じる研修先への往路と最初の数日間、現地にて起こりうる問題に対応するために国際センターの教職員が同行します。また、国際センター主催の語学研修は、一部コースで学部の履修科目への単位認定が可能となっています。平成24年度には、13の学部・研究科に所属する学部1年生から修士2年生まで計97人が語学研修に参加しています。各コースあたりの募集定員は20人前後ですが、参加希望者が定員を上回る場合は、抽選にて参加者の選定を行います。

しかし、抽選に漏れて参加できなかった希望者が今年度は多く出たため、来年度はコースを増やす計画を立てています。参加にかかる費用は、2週間コースで約20万円、1ヵ月コースで40～50万円程となります（平成24年度実績）。

4. おわりに

語学研修は、本学の正規課程に在籍する学生であれば、所属学部や学年、語学力による制限はなく、誰でも参加できます。世界の様々な国々の社会・文化を理解し、人々との交流を深める上で語学力の向上は今後ますます重要となると予想されます。皆さん、お気軽にご参加ください。

語学研修 体験学生の声

法学部2年生 花谷 諭

今回の研修に行くにあたって、航空機のトラブルのため、岡山出発が一日延期になったのは残念でしたが、その分、期待や意気込みが高まりました。グアム大学でのコース参加後すぐ、現地の人たちにインタビューすることが課されました。英語でのインタビューは初めてで、とても緊張したのですが、みんな親切に答えてくださったので、大変うれしかったです。もし、逆に私たちが留学生から日本でインタビューを受けたとき、こんなに親切に答えられるだろうかと考えさせられました。また、課外授業で訪れたメリッソ村では、日本とグアムの歴史背景を学びました。私たちはグアムを観光地やリゾートとしてとらえるだけでなく、二度と悲惨な戦争を起こさないように平和な世界を構築し、それを次の世代に継承する義務があると痛感しました。グアムには絵に描いたような美しいビーチをはじめ、珍しい魚料理、強烈に甘いデザートがあります。楽しかったこと、勉強になったことの例を挙げればきりがありません。二週間はとても短く感じられますが、有意義に過ごせました。これからも英語のスキルを磨いて、再度グアムを訪れたいです。



編集後記

本号よりはじめて本誌の編集に加りました。学部教育や教養教育の現場でいつも考えるのは、いかにして学生たちをその気にさせるかということです。人が何かを学ぶとき、自分で本気になって取り組むことこそがいちばん大事だからです。これからの大学教育の改革が、そんな学生主役の学びを支援できるものになることを願ってやみませんし、現場に立つわれわれ教員も努力を続けていかねばなりません。

今号から表紙デザインを変更しました。昨年から岡山大学で制定されました新しいコミュニケーションシンボルをモチーフにしたものです。このシンボルは、岡山大学から世界に向かって開かれる「知の扉」を表現しています。岡山大学の教育についてお知らせする本誌にふさわしいものと考えています。

社会文化科学研究科准教授 古松 崇

編集担当

教育開発センター広報専門委員会

久保田 聡, 橋ヶ谷 佳正, 紀和 利彦, 矢野 正昭, 天野 憲樹, 古松 崇, 加来田 博貴, 八木 隆徳

表紙図案構成監修

橋ヶ谷 佳正

学務部学務企画課

バックナンバー

- No. 1 特集：「新カリキュラム・教務システムについて」
- No. 2 特集：「上限制」
- No. 3 特集：「授業評価アンケート」
- No. 4 特集：「外国語教育の在り方」
- No. 5 特集：「望ましい授業とは」
- No. 6 特集：「成績評価の在り方」
- No. 7 特集：「教養教育に求めること」
- No. 8 特色G P 紹介, 学生・教職員教育改善委員会活動報告 他
- No. 9 新しくなる教養英語教育, 現代G P 紹介 他
- No.10 20年度入学生から始まる GPA 制度, 特集：「大学ではこう学ぶ」 他
- No.11 学生支援の立場から見た教養教育, 特集：「使ってみよう岡大 e-ラーニング」 他
- No.12 アドミッションセンターの活動, 特集「大学ではこう学ぶ」 他
- No.13 社会にはばたく岡大生のためのキャリア開発センターを目指して, 特集「学士課程教育構築」 他
- No.14 世界を舞台に活躍していく岡大生のために一国際センターの役割一, 特集：岡山大学の外国語カフェ 他

上記は、OU-Voice ホームページ
<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/ou.html>

よりご覧いただけます。

OKAYAMA
UNIVERSITY



OKAYAMA UNIVERSITY

岡山大学 OU-Voice 第15号

編集・発行

岡山大学教育開発センター 広報専門委員会

所在地・連絡先

岡山市北区津島中2-1-1 〒700-8530

電話：086-252-1111（代表） Fax：086-251-8440

E-mail：gkikaku@adm.okayama-u.ac.jp